

長年のビジネス経験を、外国人留学生に捧げるシニア人材とは

■ 自分の居場所について考えた定年直後

先月号でご紹介した中四国地方最大級の日本語学校である岡山外語学院で、顧問として外国人留学生を支えているのが秋政孝一さんである。秋政さんは、地元岡山の放送局で44年間営業 人事、編成、ラジオセンターなどで部長職も歴任し、取締役も務めてきたビジネスパーソンである。そんな秋政さんが66歳で定年退社し、自ら世話人をして「朝の哲学カフェ」でテーマに選んだのが「自分の居場所を考えてみよう」であった。秋政さんは、「突然居場所がなくなったのです。退任するまで、仕事人生には迷いも葛藤もなく、ただ日々の仕事をこなすのに精一杯でした」と当時の心境を振り返ってくれました。

■ 外国人留学生の就職活動も支える秋政さん

「第二の人生を歩むにあたって、誘われた集いには全て参加しました。声をかけていただいた集いをお断りすると二度と声をかけられなくなるかと危惧したのです」と秋政さんは続けられました。そんな定年直



秋政孝一さん

後の秋政さんでしたが、仕事人生で培ってきた地域ネットワークから「秋政さん、ぜひうちに来てくれませんか。少し手助けをしてくれませんか」と声がかかるようになり、その一つが岡山外語学院であった。

岡山外語学院では、秋政さんは、ビジネスパーソンとしての豊かな経験を活かして、担当の広報業務では、昨年8月の日本語教育30周年記念式典や、30周年記念誌の発行も手掛けた。「夏場に入り、コロナ感染者数が急増し、式典会場を、手配していた大きな会場から急遽学院内のオンライン式典に切り替えることを余儀なくされました。でも、オンライン画面から世界中の卒業生がメッセージを届けてくれたのです」と興奮冷めやらぬ面持ちで語ってくれました。また、人事部での経験を活かして、就職希望の留学生に履歴書の書き方や面接の個別指導を行うことにも自然と熱が入っているようです。「自分が培ってきたことは、留学生に全て還元したいと思っています」とその胸中を明かしてくれました。

■ 留学生・中高生からも教わる機会が多い

秋政さんは、岡山外語学院以外にも、県内の中学校、高校やNPO法人で、若い学生や生徒と関わることに大きなやり

がいを感じているそうです。「教えているようで、実は教えてもらうことの方が多いのです。課題探求型授業では、はつとするような斬新な意見も聴けます」「今では、後進世代のために、ちよつとだけお役に立ちたいが信条になりました。自分で手を動かすことも多く、NPO法人のホームページ制作にチャレンジし、情報を発信しています」と楽しげに続けてくれました。「惜しむらくは、もっと早く会社員時代から異分野に関わっておけば、自分をより広く活かせたのではないかと思います」と、一回り年下の筆者に語ってくれました。

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所 理事長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。著書として『定年NEXT』『人生の頂点は定年後』がある。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問合せ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。